

(様式1)

令和2年度 目標達成計画

園所名 清心認定こども園

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組  
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

**教育・保育目標**  
明るくのびのびとあそぶ子ども・丈夫なからだで強い精神力をもつ子ども・何事にも一生懸命取り組む子ども  
・創造力たくましい子ども・やさしさと思いやりの心をもつ子ども・友だちと一緒に遊べる子ども

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	【新型コロナウイルス感染症予防対策について】  (現状) 子ども達が取り組める感染予防対策を行う。(マスク着用、手洗い、消毒、ソーシャルディスタンスの確保)	① 感染症を知り、予防対策を身につける。 ② 個々の健康状態を把握し、思いを受け止めながら丁寧な対応を行い、子どもたちの心と身体の安定を図る。 ③ 集団生活の場で、感染が広がらないよう、清掃・消毒を行う。	① ポスターや紙芝居を使い、感染症や手洗いを知り実践する。新しい習慣が身につくように、園だよりを通し、保護者に周知する。 ② 日々記録表に、毎朝の検温や体温・体調の変化を記入し、クラス職員で共通理解をする。 ③ 園内研修を行い、全職員が理解を深める。一日2回(日中・降園後)の清掃・消毒を行う。	① 以前より手洗いの大切さを知り、習慣が身についた。送迎時の保護者の手指消毒も、習慣となった。 ② 日々記録を残すことで、子どもたちの体調(不調・良好)の変化をより把握することができるようになった。全職員が、同じ衛生管理意識を持つことができた。清掃・消毒も定着している。	① ポスター・紙芝居・手洗い場の手洗い方法イラスト等を活用し、手洗いの大切さを伝え習慣づけることができた。立ち位置シールをつける、混雑しないよう時間差をつける等、楽しみながら自然にソーシャルディスタンスがとれるようになった。保育士が「おそろいマスク」を手作りして子どもにプレゼントしたことにより、子どもが自発的にマスクを着用できるようになった。毎月園だよりでコロナ関連情報を提供し、手指消毒・マスク着用を注意喚起することで、保護者の理解が深まり、予防策の習慣化ができた。 ③ 毎日子ども一人ひとりの検温を行い「日々記録表」に記録することで、職員が子どもの体調を把握し迅速な対応につなげている。 6月の職員会議で「感染症対応マニュアル」の内容を共有し、感染予防対策について共通理解を持てた。掃除の場所に消毒方法等を記載したものを置くことで、統一した方法で担当ヶ所を清掃できるようになっている。今後は、「清掃チェック表」等、確認できる仕組み作りを行う予定である。
良いとこ自慢!	(保育内容) ① 手作り玩具、サーキット、リトミックなど、子どもの発達に合った遊びを十分に楽しんでいる。 ② 汽車バスに乗って、三木山森林公園や防災公園など、公共の施設を利用し自然に触れる(昆虫採集・自然散策)。  (管理運営面) ① 保育者間で、子どもの成長や発達などについて話し合い、情報共有している。 ② 前回の評価で、様々な手法で研修を実施していることを褒めていただいた。	① いろいろなことに興味を持ち、手や身体を動かして楽しく元気に過ごす。また、挑戦することの大切さを知り、できたという達成感を持つ。 ② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」のうち「自然との関わり・生命尊重」についての保育活動を深める。	① 子どもたちの発達や興味に合わせ、手作りおもちゃや段ボールを使い、あそびを展開する。 ② 自然散策に必要なもの(網や虫かごなど)を準備し、「捕まえた昆虫は、帰るとき逃がすこと」を子どもたちと話し合う。	① 手作りおもちゃでは、思いがけない遊び方を発見し、友だちと共有し楽しむことができた。 ② 昆虫を捕まえ、一度は虫かごに入れるが、観察した後は自ら逃がすことができるようになった。命を大切にすることが見られた。	・各クラスにおいて、遊びの中で子どもたちが工夫しながら楽しんでいる様子が見られる。環境を自分たちで整えたり、遊びを見つけたしたりしながら、おもしろさを感じて過ごしている。 ・年長児のグループ活動などを通してお互いに関わり合っている姿が見られる。それぞれの持ち味を生かしながら、集団生活を円滑に進められるよう、友達同士で支え合うようになっている。3・4歳児の縦割りクラスでは、4歳児が3歳児にやさしく関わる場面も多く見られ、人との関わりを学んでいることがわかる。
ここを改善!	(保育内容) ① もっと子どもたちが遊びを考え、友だちと協力しながら遊びを展開できるようにになりたい。 ② 園庭で遊ぶクラスが重複すると、安全面に心配があるので、伸び伸びと遊べるよう、戸外活動の時間や場所を工夫したい。  (管理運営面) ① 不審者対策(避難訓練)の取り組みを強化する。 ② 保育者間の連携を記録として残すこと。	① 子どもが遊びを考え、主体的に遊べる環境を作る。(遊びに必要なものを自分たちで準備し、遊び終えた時に、元の場所に片付けられるような環境を作る。) ② 隣接する公園など活動場所を増やし、全クラスの一日の活動の流れや時間を可視化し、ゆとりを持った教育保育を目指す	① 室内玩具を、子どもの見える位置・場所に並べ、子どもが自発的に遊びに取り組めるよう環境を構成する。 ② 園庭での活動時間を、職員会で話し合い、安全な遊びの時間と空間を作る。10時から10時半の年少児の活動しやすい時間を確保し、保育内容に合わせ、クラス間で時間や場所の変更があれば相談する。	① 自発的に考えて遊ぶことで、子ども同士の関りが増え、言葉のやりとりを楽しんでいる。意見が違っても、話し合っ解決する姿が見られた。 ② 園庭の活動時間を相談し、1日の計画が立てやすくなった。他クラスと声を掛け合い遊ぶことで、より交流が持てた。	・子どもたち同士が話し合っ何かを決めていく活動や、異年齢で関わる機会などを通して、他者を意識しながら生活することができてきている。そのような活動や機会を通して、子どもたちは自信をつけ、互いを尊重しあう関係性が育まれつつある。
		① 不審者対策のマニュアルを整備し、対応を共通理解し、防犯意識を高める。連絡等確認できるよう、教育保育日誌と一緒に、伝言シートを作り活用する。 ②	① 不審者マニュアルを基に、会議を行う。不審者侵入の際、放送で知らせる合言葉を職員で話し合い、避難行動の手順を決め、訓練を行う。 ② 備品請求・保護者相談(依頼)は伝言カード、ケガ・病気は日々記録・日誌に記入する。いつでも誰でも記入ができるよう、書類は見えるところに置く。	① 職員会議で決めた避難を促す放送を聞くと、各クラスで身を守る行動をとる。(不審者が部屋に入ってこないよう、いすや机でバリケードを作る。部屋の電気を消し、静かに集まる。)時差出勤の職員が、クラスの前日や朝の様子などが分かるよう、様子を記録しておくことで、より細やかな連携を取れるようになった。	① 不審者対策マニュアル・フローチャートを整備し、職員会議で対応を共通理解し、不審者対応避難訓練を実施した。実施報告書に各クラスの反省・課題を記録し、その検討を次回の訓練に活かせるよう取り組んでいる。今後は、さすまたを使った訓練・DVD研修・警察や警備会社の意見を聞く等の取り組みを予定している。 ② 日々の保育の引継ぎ事項を「保育日誌」「日々記録表」に記録すると共に、「伝言ノート」を作成し、備品請求や保護者からの依頼や相談等を記入し、対応結果も追記する取り組みを行っている。そのことにより、伝達漏れがなくなり、職員間で連携を取りやすくなった。